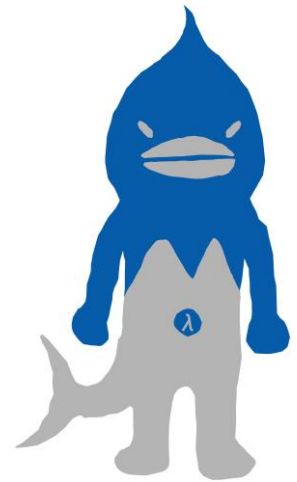


Ⅱ λ（ラムダ）プロジェクトに関する活動事例

津軽海峡交流圏の形成に向けた
λ（ラムダ）プロジェクトに関する活動事例を
紹介します。



文中の〔提案番号〕欄には、関連がある
と考えられる平成 25 年度の提案番号を
記載しています。

平成 25 年度の提案は、関係資料として
65～71 ページに掲載しています。

■目次

区分	タイトル	ページ
津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議	「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議～北海道新幹線開業まであと2年 ～津軽海峡交流圏を盛り上げよう！」を青森市内で開催	34
	平成26年度に「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議」を道南地域で開催する予定	34
津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議委員	「津軽海峡マグロ女子会」が発足	34
	「奥津軽トレイル」の開発	34
	青い森鉄道のプロモーション	34
	弘前路地裏探偵団が函館市の探偵団にのれん分け	34
	学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムとキャンパス・コンソーシアム函館が連携	34
	青函の旅行商品の造成	35
	λ（ラムダ）プロジェクトシンボルキャラクターの制作	35
	下北・津軽・檜山のひば連携	35
	「津軽でつながる半島のじかん」の開催	35
	奥津軽「駅からサイクリング」お試しツアーの開催	35
	佐井村と道南地域との交流・連携を目的とした観光モデルコースの検討	35
	中泊町の新・ご当地グルメの提案	35
	自然を生かした遊びづくり	36
	マタギをテーマとした資料館を製作中	36
	着地型体験ツアー等の造成	36
	県産ひば材を使った青い森鉄道のキャラクター・モーターグッズの作成	36

区分	タイトル	ページ
企業・団体等	(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所、(地独)北海道立総合研究機構水産研究本部函館水産試験場の連携	37
	かかしロード280実行委員会の設立	37
	北の縄文文化回廊づくり推進協議会の設立	37
	青森商工会議所・函館商工会議所によるパートナーシップ支援	37
	北洋銀行・青森銀行の連携	37
	北海道銀行・東北地銀10銀行が業務提携を締結	37
	大間・函館航路に新造船「大函丸」が就航	38
	青森地域社会研究所が「新時代における津軽海峡交流圏」を『月間れじおん』で特集開始	38
	東洋社(青森市)が函館市に開設した函館営業所での業務を開始	38
	ラグノオささき(弘前市)が、函館市の金森商船のプライベートブランドとして「金森レンガ倉庫のキャラメルガトー」を製造	38
	道南産の復刻米「マツマエ」を使って六花酒造(弘前市)が特別純米酒「ガスバリ」を醸造	38
	瑠瞳(木古内町)があおもりシールドと木古内産はこだて和牛料理のコラボメニューを販売開始	39
	函館市のパン・洋菓子製造「パン・エスポワール」が青森市に進出	39
	青森銀行、北洋銀行、アークス、新日本スーパーマーケット協会が青函活性化支援で合意	39
	津軽海峡ブランド博の開催	39
	北星交通(弘前市)と函館タクシー(函館市)の連携	39
	(仮称)青森県・函館デスティネーションキャンペーンの開催決定	39
	青森・函館航路に新造船「はやぶさ」「ブルーマーメイド」が就航	39
	青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が販売開始	40
	FMアップルウェーブ(弘前市)とFMいるか(函館市)の共同企画実施	40
	FMいるか(函館市)と弘前のホテルで働くさくらレディー(弘前市旅館ホテル組合)との連携	40
	「街あるきガイドひろさき2014」に函館の情報を掲載	40
	はちのへ観光復興委員会による旅行商品等の開発	40
	三圏域連携懇談会による北海道からの誘客促進	41
	青森銀行、北洋銀行が連携し官民連携ファンドである「青函活性化ファンド」を設立	41
	函館西部地区バル実行委員会が「弘前バル街」に合わせて青森県を訪ねるツアーを企画	41
青森県サイクル・ツーリズム推進協議会の設立	41	

区分	タイトル	ページ
行政(県)	「奥津軽駅」ネットワーク構築事業	42
	東北新幹線時間地図等作成事業	42
	北海道新幹線「奥津軽駅」開業を見据えた戦略事業	42
	中南地域・着地型広域連携観光推進事業	42
	津軽半島劇場化プロジェクト事業	42
	津軽半島観光アテンダント推進事業	42
	道南の生徒への青森の魅力発信事業	42
	「青森ブランド」普及促進事業	43
	北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業	43
	「奥津軽駅」二次交通等整備促進事業	43
	津軽海峡交流圏フリーパス構築事業	43
	λ(ラムダ)プロジェクト推進事業	43
	つながる県民プロジェクト事業	43
	縄文ムーブメント拡大事業	43
	「あおもりポテンシャルビュー」構築事業	44
	青い森鉄道新需要創造事業	44
	白神山地21年目からの保全と活用推進プロジェクト事業	44
	白神山地エコツーリズム資源可能性調査事業	44
	青森県特別保証融資資金制度貸付金「未来を変える挑戦資金」	44
	新幹線開業効果活用型地域産業創出事業	44
	青函連携「食と観光」タイアップキャンペーン事業	45
	観光おもてなしブラッシュアップ事業	45
	観光マインドアップ事業	45
	青森県・函館誘客促進プロモーション事業	45
	東アジア・ASEAN向け情報番組制作事業	45
	青函広域観光推進事業	45
	青函サイクル・ツーリズム魅力発信事業	45
	アレコ青函ソウル共感力創造事業	46
	北海道新幹線「奥津軽駅」開業に向けた戦略展開事業	46
	北海道新幹線「奥津軽駅」開業効果に向けた観光拠点化モデル事業	46
	道南と津軽・夏泊・下北半島との連携促進事業	46
	上磯地域のグリーン・ブルー・ツーリズム促進支援事業	46
	白神の食めぐり観光促進事業	46
	三陸復興国立公園の新たな魅力発信事業	47
	北海道新幹線開業に向けた津軽半島北部エリア観光推進事業	47
	体感する小川原湖推進事業	47
	道南からの上北地域誘客促進事業	47
	下北「海の道」魅力発信事業	47
	台湾から来さまい下北推進事業	47

区分	タイトル	ページ
行政 (市町村)	青函ツインシティ推進事業	48
	津軽海峡・むつ湾広域連携推進事業	48
	津軽海峡ブランド博開催事業	48
	青函ツインシティまつり交流事業	48
	青函観光宣伝協議会	48
	青函圏観光都市会議	48
	小牧野遺跡資料展示施設整備事業・小牧野遺跡整備事業	49
	世界遺産登録推進事業	49
	北海道新幹線新函館開業対策事業	49
	種差海岸遊覧バス運行事業	49
	日曜朝市循環バス運行事業	49
	種差海岸らくらくサイクル事業	49
	物産販売促進事業	50
	五所川原まるごとPRキャラバン事業	50
	津軽半島地域活性化促進事業	50
	七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業	50
	十和田地産品PR活動隊	50
	函館グルメサーカスへの参加	50
	旅行エージェントへのプロモーション	51
	下北半島観光フォトスポットPR事業	51
	むつ市夜景観光推進事業	51
	夏泊半島ブルーロードライド	51
	ハクチョウのまち再生	51
	まるごとPRキャラバン事業	51
	友好町知内町との交流活性化事業	52
	道の駅たいらだて「Oh!たいば」周辺散策マップ配布	52
	北海道新幹線開業対策津軽半島連携事業	52
	北海道新幹線開業対策にぎわう駅ナカビジネス創造事業	52
	北海道新幹線開業対策徐福来町伝説・津軽海峡連携PR事業	52
	観光客誘客促進による地域活性化推進事業	52
	圏域内ネットワーク強化によるゴールデンルート構築事業	52
	町内巡回バス運行事業	53

■青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

- 「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議～北海道新幹線開業まであと2年 ～津軽海峡交流圏を盛り上げよう！」を青森市内で開催／平成26年3月15日

「マニアをターゲットに！（お酒、自転車、食等）」をテーマに、公開かつ参加型のチーム会議を行った。また、県内資源の可能性の発見とネットワークづくりのため、県産酒と食の組み合わせをテイasting、品評する「ラムダ実験室」を行った。

- 平成26年度に「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 公開ナマ作戦会議」を道南地域で開催する予定

■青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 委員

- 「津軽海峡マグロ女子会」が発足／島康子委員・高木まゆみ委員／平成26年3月～

[提案番号 42]

青森県と北海道南の女性たちが連携して街づくりを行う「津軽海峡マグロ女子会」が発足した。マグロ女子ならではの個性を最大限に活かしながら、かつ競争し競い合いながら、津軽海峡交流圏を盛り上げていく。

- 「奥津軽トレイル」の開発／伊藤一弘委員・木谷敏雄委員／平成25年度 [提案番号 1]

奥津軽トレイルルートの開発と受入体制の整備、及び観光商品（特産品）開発を実施した。

- 青い森鉄道のプロモーション／木谷敏雄委員／平成25年度 [提案番号 15]

「わ」の娘っこという地域を応援する女性たちをクローズアップした情報発信ツールの制作と、沿線での体験交流のプログラムを作成した。

- 弘前路地裏探偵団が函館市の探偵団にのれん分け／坂本崇委員／平成25年度

探偵姿で街の路地裏の秘密を解き明かしながら観光案内する「弘前路地裏探偵団」（鹿田智嵩団長）が、初めての“のれん分け”を函館市の「だいもん路地裏探偵団」に許す。

- 学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムとキャンパス・コンソーシアム函館が連携／森樹男委員／平成25年度 [提案番号 37]

弘前市内の6大学が連携する「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム学生委員会・いしてまい」がHAKODATEアカデミックリンク2013に特別参加し、学生9人が活動状況などを報告した。

学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムがキャンパス・コンソーシアム函館の田中邦明座長を招き、シンポジウムを開催した。

○青函の旅行商品の造成／向久保文一委員／平成 25 年度 [提案番号 13]

J R 東日本として青函に向けた首都圏発の旅行商品を造成し、発売している。青森、函館の 2 都市に宿泊するコースや、函館に 1 泊してフェリーで大間に渡るコースなど、青函ゲストステーションキャンペーンを意識したコースづくりを行っている。

○λ（ラムダ）プロジェクトのシンボルキャラクターの制作／尾崎伸行委員／平成 26 年度

[提案番号 33]

津軽海峡交流圏形成に向けたλ（ラムダ）プロジェクトのシンボルキャラクターの制作を行った。

○下北・津軽・檜山のひば連携／島康子委員／平成 26 年度

[提案番号 1]

「ひば」サミットを開催し、交流しながら「ひば」の可能性について探っていく。

○「津軽でつながる半島のじかん」の開催／高木まゆみ委員／平成 26 年度 [提案番号 37]

9 月 21 日（日）～9 月 22 日（月）に、これまでの交流をさらに広げ、半島の未来を一緒に考える集いを開催する。（「半島の台所」半島マルシェ、「半島の手仕事」体験プログラム、「半島の遊び」、半島ワークショップなどを行う予定）

○奥津軽「駅からサイクリング」お試しツアーの開催／高木まゆみ委員／平成 26 年度

[提案番号 12]

元パラリンピック日本代表選手であり、自転車で日本や世界の大陸を走破した経験を持つ、マルチアスリート田中哲也氏の活躍と奥津軽いまべつ駅の知名度アップを図るためのサイクリングツアーを行う。

（実施日：7 月 21 日、集合：津軽今別駅（北海道新幹線奥津軽いまべつ駅）

○佐井村と道南地域との交流・連携を目的とした観光モデルコースの検討／高木まゆみ委員／平成 26 年度

[提案番号 37]

北海道道南地域の観光事業者・関係者と観光プログラムの商品化を検討する。

（平成 26 年 7 月 17 日（木）～18 日（金））

○中泊町の新・ご当地グルメの提案／ヒロ中田委員／平成 26 年度

[提案番号 24]

季節で水揚げされるイカの種類が異なる中泊町の新鮮な活イカを使った、新・ご当地グルメ「なかどまり活イカ姿丼」を提案した。

○自然を活かした遊びづくり／福士拓弥委員／平成 26 年度

[提案番号 2]

廃校の建物を活用してオープンした「お山のおもしえ学校」は、昔ながらの木造校舎を大切に保存し、そして、訪れた人が楽しくなるような場所を目指して開校されたものである。板張りの廊下や教室には、ところ狭しと昭和の時代の道具や農具等を数多く展示するほか、クレヨン画家孫内あつし氏のアトリエ、喫茶職員室では自家製麺手打ちそばや自家栽培のいちごを使用したいちご牛乳が人気メニューとなっている。また、お山のおもしえ学校は八甲田の南玄関口に位置しており、日本山岳ガイド協会認定登山ガイドによる通年を通した学校周辺での定期トレッキング（月 2 回）をはじめ、夏限定の南八甲田キャニオニングプログラム（7 月～9 月）といった自然体験プログラムを取り扱っている。2014 年からは、JTB のオプション旅行商品としても販売中。

○マタギをテーマとした資料館を製作中／福士拓弥委員／平成 26 年度

[提案番号 2]

お山のおもしえ学校のある黒石市大川原地区は、古くからマタギ伝説のある地域である。昨年から本格的に専門家の大学教授の協力を得て、大川原マタギを中心に北東北 3 県のマタギの歴史・文化の調査・研究を行っており、公的記録では遅くとも江戸時代初期に大川原にマタギがいた（青森県のマタギで有名な目屋マタギは江戸時代後期に誕生）とされている。そこで、当学校では 2014 年から本格的に大川原マタギに関わる事業を計画中で、第 1 弾としてマタギをテーマとした資料館を学校に現在製作中（7 月～8 月頃オープン予定）。その他、マタギに関わる様々な事業を長期で計画中である。

※マタギたちは明治期頃になると、熊および鹿獲りのため地元の山以外に山形や新潟、北海道へ長期間の日程で遠征していた。

※マタギ＝北東北 3 県（青森、秋田、岩手）の山間に住み、ハンターや世間一般で言う猟師とは違い「マタギ独自の儀式・習俗をもつ猟師」のこと。

○着地型体験ツアー等の造成／町田直子委員／平成 26 年度

[提案番号 13]

漁業、農業者とのコラボによる体験ツアー、屋形船で八戸の食、夜景を堪能するツアー、鉄道を活用した体験プログラム（青い森鉄道を活用し、産直列車、歌声列車で体験プログラム）など、ビジネス客をターゲットに夜ツアー、朝ツアーを実施している。また、JR 観光アテンダント、種差海岸 IC 運営）八戸の観光資源を活用した八戸らしいお土産づくりに取り組んでいる。

○県産ひば材を使った青い森鉄道のキャラクター・モーリーグッズの作成／三津谷あゆみ委員／平成 26 年度

[提案番号 1]

ひばの香りを活かした商品で、また、製作を今別町の業者に依頼していることから、先日、名称の決まった北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」をあわせてアピールし、青森ねぶた祭りで来県の観光客をターゲットに販売する予定。

■企業・団体等

○（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所、（地独）北海道立総合研究機構水産研究本部函館水産試験場の連携／平成2年度～

青函水産試験研究交流会議として、毎年、津軽海峡の両岸に位置する青森県・北海道の両水産試験研究機関が相互に交流を深めることにより、水産試験研究の充実を図るとともに、周辺海域の水産業の発展に寄与することを目的として、試験研究成果を発表し、情報交換を行っている。

○かかしロード280実行委員会の設立／平成19年度～

平成19年度より「かかしロード280事業」として、国道280号線バイパスに地域の団体等が作成したかかしを展示している。当初の青森市西北部地域から、現在は蓬田・外ヶ浜・今別地区まで拡大。今後、国道280号でつながる道南地域と「かかし」をテーマに連携して、更なる地域の活性化等を目指して取り組んでいる。

○北の縄文文化回廊づくり推進協議会の設立／平成20年度～

4道県における縄文文化遺産の保存・活用に携わっている18の民間団体によって設立。北海道・北東北の縄文文化遺産等の価値を見直し、地域間交流や情報発信を行うことにより、地域の魅力と価値を内外にアピールすることを目的とし、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向け、普及・啓発活動も行っている。

○青森商工会議所・函館商工会議所によるパートナーシップ支援／平成24年度～

両商工会議所による「商品拡大」「販路拡大」「技術提携・連携」等の経済連携促進を目的として、青函パートナーシップによる事業提案を募集し、両地域の関心のある事業所に対してプレゼンテーションの場を提供するビジネスマッチング事業を実施している。

○北洋銀行・青森銀行の連携／平成24年12月～

北海道新幹線開業を見据え、産業及び地域振興に資する事業等の実施において連携・協力を行うことにより、両地域の経済、地域の活性化に寄与することを目的として、協定書を締結した。（ATM相互無料開放、両行取引先の交流促進、販路開拓支援等）

○北海道銀行・東北地銀10銀行が業務提携を締結／平成25年3月～

北海道新幹線開業を控え、東北地区と北海道地区との相互交流を多方面から積極的にサポートするとともに、東北・北海道地区をひとつの経済圏と捉え、地元銀行として連携を強化することで地域経済の発展に寄与する。

（各地域の団体の交流・連携支援、相互地域への進出支援等）

○大間・函館航路に新造船「大函丸」が就航／平成 25 年 4 月～

平成 25 年 4 月に大間・函館航路に新造船「大函丸（だいかんまる）」が就航。所要時間は 90 分で、以前より 10 分短縮した。

○青森地域社会研究所が「新時代における津軽海峡交流圏」を『月刊れぢおん』で特集開始／平成 25 年度～

（一財）青森地域社会研究所が、『月刊れぢおん』で、「新時代における津軽海峡交流圏」特集を開始。交流の歴史、産業、経済、観光、津軽海峡ブランドの可能性などの考察をし、津軽海峡経済圏の可能性について探る。

○東洋社（青森市）が函館市に開設した函館営業所での業務を開始／平成 25 年 6 月～

事業者の声

平成 25 年度に函館の営業所を開設してから、ホテルのリネンサプライや業務用ユニホームのクリーニング・リースなど、少しずつ取引先を増やしている。今後も、お客様のニーズにあったサービスを展開していきたい。

○ラグノオささき（弘前市）が函館市の金森商船のプライベートブランドとして「金森レンガ倉庫のキャラメルガトー」を製造／平成 25 年 7 月～

事業者の声

商工会議所のつながりから生まれた連携で、金森倉庫とつながり、製造を手掛けることとなった。「金森レンガ倉庫のキャラメルガトー」は金森倉庫のプライベートとして販売されており、金森倉庫の中でも売れ筋の商品で特に若い人に人気があると聞いている。当社では、秋田でも商品展開をしており、秋田産品を使ったお菓子なども複数作っている。「地域の素材をラグノオ方式でつくる」という精神のもと、いずれ、北海道でもそのような展開ができればよいと考えている。

○道南産の復刻米「マツマエ」を使って六花酒造（弘前市）が特別純米酒「ガスバリ」を醸造／平成 24 年 7 月～

事業者の声

函館の料理人で組織する「クラブガストロノミーバリアドス」の函館産の復刻米「マツマエ」を使った商品を作れないかという声に、六花酒造が応えた。（きっかけは津軽海峡観光クラスター会議）

これまで、ガスバリ 2013（720ml）は 1,200 本、ガスバリ 2014（500ml）は 600 本つくった。ガスバリ 2015（720ml）は 2,400 本つくる予定。いずれも現段階では道南のみでの販売となっている。

○瑠瞳（木古内町）があおもりシードルと木古内産はこだて和牛料理のコラボメニューを販売開始／平成 25 年 7 月～

○函館市のパン・洋菓子製造「パン・エスポワール」が青森市に進出／平成 25 年秋～

○青森銀行、北洋銀行、アークス、新日本スーパーマーケット協会が青函活性化支援で合意／平成 25 年 11 月～

青森銀行、北洋銀行、アークス、新日本スーパーマーケット協会は、青函圏の「食と観光」活性化支援に連携して取り組むことで正式に合意した。金融機関の情報力と流通業者の販売力の連携により、青函圏の新たな食の開発や食を通じた観光の推進などを行う。

○津軽海峡ブランド博の開催／平成 25 年 11 月

平成 25 年 11 月 22 ～ 24 日、青森産業会館で「津軽海峡ブランド博」が開催された。食品加工会社を中心に圏域の 100 以上の企業、団体の出展があり、県内外のバイヤーを招いた商談会や来場者向けの物産販売が行われ、津軽海峡をテーマにしたブランドを売り込んだ。

○北星交通（弘前市）と函館タクシー（函館市）の連携／平成 25 年 12 月～

事業者の声

北海道新幹線開業を契機に、気軽に行き来できるようになればよいという思いから、両社のタクシーチケットを相互利用できるよう業務提携している。また、函館タクシーが弘前さくら祭り期間中に弘前の桜を紹介したり、北星交通が函館の観光冊子を配布するなど、期間限定ではあるが、お互いのエリアを発信し合っている。弘前・函館の両地域をお客様が快適に利用できるようになるためにも、今後も工夫していきたい。

○（仮称）青森県・函館デスティネーションキャンペーンの開催決定／平成 26 年 3 月

平成 27 年度末の北海道新幹線新青森・新函館北斗間開業後の平成 28 年 7 月 1 日から 3 ヶ月間、本県と道南地域で、（仮称）「青森県・函館デスティネーションキャンペーン（DC）」が開催されることが決定した。

○青森・函館航路に新造船「はやぶさ」「ブルーマーメイド」が就航／平成 26 年度

青森・函館航路に、新造船「はやぶさ」（青函フェリー/平成 26 年 3 月～）、「ブルーマーメイド」（津軽海峡フェリー/平成 26 年 4 月～）が就航した。

○青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が販売開始／平成 26 年 4 月～

青森市産のカシスと道南のチーズを使用した青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が、青森市の松栄堂から販売された。青函ツインシティ提携 25 周年を記念して、青森商業高校の生徒と菓子店が共同開発したものの。

○FMアップルウェーブ（弘前市）とFMいるか（函館市）の共同企画実施／平成 26 年 4 月～

事業者の声

平成 27 年度末の北海道新幹線開業を契機に、両社共同で、「弘前・函館満喫交換日記」というコーナーを持っており、同じ内容を放送している。（FMアップルウェーブは毎週土曜日「はりきり！アクティ部サタデー」内 14 時～、FMいるかは毎週日曜日「キラキラ WEEKEND」内 11 時 10 分～）

高校の同級生だった 2 人の女の子が函館、弘前の大学にそれぞれ進学し、お互いの地域の面白い情報を交換日記方式でやりとりするという設定。街歩きガイドや地元の方に案内してもらいながら、ガイドブックにはない、地元ならではの楽しみ方を発信している。お互いのエリアに興味を持つきっかけになればよいと思う。

（FMアップルウェーブ）

○FMいるか（函館市）と弘前のホテルで働くさくらレディー（弘前市旅館ホテル組合）との連携／平成 26 年 4 月～

事業者の声

FMいるかの番組「きて！みて！弘前」（毎週木曜日 14 時 5 分～）という番組に、弘前のさくらレディーが電話出演し、りんごのお花見や花火大会、夜宮など、地元の人に愛されているイベント情報などを紹介している。このようなつながりをきっかけに、FMいるかが発行する「いるかPRESS」で弘前市を紹介するなど、取り上げる機会が多くなってきている。

（FMいるか）

○「街あるきガイドひろさき 2014」に函館の情報を掲載／平成 26 年 4 月～ [提案番号 47]

弘前観光コンベンション協会が発行している「街あるきガイド弘前 2014」に、函館のグルメやお土産情報などを掲載している。

○はちのへ観光復興委員会による旅行商品等の開発／平成 26 年 4 月～

北海道新幹線開業を見据え、函館等も含めた広域的な視点での広域観光ルート、旅行商品の開発に取り組んでいる。

○三圏域連携懇談会による北海道からの誘客促進／平成 26 年 4 月～

○函館グルメサーカスへの出展（平成 26 年 9 月）

北海道新幹線開業に向け、北海道からの観光客来訪及び滞在を促進することを目的に、同イベントの出展ブースを確保し、新規取引拡大等の意欲のある事業者の出展支援を行う。併せて、三圏域（八戸・二戸・久慈）のパンフレットやチラシを設置、配布しPRを行う。

○オリジナルPR冊子作成（平成 26 年 8 月発行予定）

北海道等からの観光客を三圏域（八戸・二戸・久慈）に誘客するためのツールとして、特に 20～30 代の女性に訴求力の高い人気雑誌媒体とタイアップしたPR用オリジナル小冊子を作成する。

○青森銀行、北洋銀行が連携し官民連携ファンドである「青函活性化ファンド」を設立／平成 26 年 5 月～

異なる地域の金融機関が連携する官民連携活性化ファンドは、全国でも初の試み。また、第 1 号案件として函館の老舗五島軒への投資が決まっており、七飯町産・青森産のりんごを使ったロールケーキ「函館ロール」増産のための設備投資等に充当する予定。

○函館西部地区バル街実行委員会が「弘前バル街」に合わせて青森県を訪ねるツアーを企画／平成 26 年 7 月

函館西部地区バル街実行委員会が、7 月 5 日の「弘前にバル街」に合わせて函館発着で青森県を訪れる、一般客も参加できるツアーを企画した。

○青森県サイクル・ツーリズム推進協議会の設立／平成 26 年 7 月 [提案番号 9]

サイクリング観光に携わる多様な主体を構成員とする「青森県サイクル・ツーリズム推進協議会」を設立し、道南側で開催される「青函圏サイクル・ツーリズム研究会」に参画し、両地域をまたいだサイクル・ツーリズムの推進方策に関する情報共有を行う。

■行政

<県>

○「奥津軽駅」ネットワーク構築事業（企画政策部）／平成 25 年度

奥津軽いまべつ駅の交通アクセスの利便性向上に向け、二次交通モデル事業として「太宰と奥津軽号」を運行したほか、DMV導入可能性調査、二次交通事業者へのヒアリングなどを実施した。

○東北新幹線時間地図等作成事業（企画政策部）／平成 25 年度

交通事業者と連携し、東北新幹線を旅のプロローグとしてそこからつなぐ県内の鉄道路線（JR、地方民鉄）及び北海道新幹線の魅力を楽しく伝えるガイド本を作成した。

○北海道新幹線「奥津軽駅」開業を見据えた戦略事業（東青地域県民局）／平成 25 年度

津軽線沿線周辺等の地域資源の調査や、トレッキングコースなど掘り起こした地域資源に対する専門家の評価・助言など景勝地等の発掘、磨き上げの調査検討等を実施したほか、地元食材活用メニューの実習・試食会の実施等、食の発掘・磨き上げを行った。

○中南地域・着地型広域連携観光推進事業（中南地域県民局）／平成 25 年度

津軽ひろさき街歩きガイドブックの作成や、広域でのエージェントセールスなどを通じ、各地域と連携しながら広域観光を推進した。

○津軽半島劇場化プロジェクト事業（西北地域県民局）／平成 25 年度

太宰治の作品のドラマリーディングを新たな観光コンテンツにするため、語り手集団「津軽『語りスト』」を育成するとともに、旅行エージェントなどへの紹介を行った。

○津軽半島観光アテンダント推進事業（西北地域県民局）／平成 25 年度

県・地元自治体・鉄道会社が「津軽半島観光アテンダント推進協議会」を設立し、津軽半島観光アテンダントがブログ、トレインアテンダント、街歩きイベントの企画などを行うことで、地元ならではの視点での魅力発信を行った。

○道南の生徒への青森の魅力発信事業（総務部）／平成 26 年度

[提案番号 37]

北海道新幹線開業により、道南地域、青森県の双方の生徒にとって進学の実選択肢が広がると考えられることから、大学等の紹介にとどまらない、青森県における学生生活の魅力を発信する進学説明会を開催する。（平成 26 年 11 月 3 日に開催予定）。

○「青森ブランド」普及促進事業（企画政策部）／平成 26 年度 [提案番号 28]

県民が青森県の価値を再認識する契機とするため「青森ブランドフォーラム」を開催するとともに、これに前後してメディア等を活用したPRを展開し、青森ブランドの基本的な考え方の県内定着を図る。

○北海道新幹線「奥津軽駅」開業プロモーション事業（企画政策部）／平成 26 年度

[提案番号 12、33、44]

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業獲得に向けた県民の機運醸成を図るため、県内夏祭り等での「奥津軽いまべつ駅」開業プロモーション活動、レールウォークの実施、ポスター・のぼりの制作や、北海道との共同による津軽海峡交流圏マップの作成などに取り組み。

※北海道との共同事業

○「奥津軽駅」二次交通等整備促進事業（企画政策部）／平成 26 年度 [提案番号 21]

奥津軽いまべつ駅開業を見据え、二次交通の整備推進に向けた会議の開催や交通事業者等へのヒアリングの実施や、奥津軽駅を起点とする二次交通バスの整備に向けたモデルバスの実証運行（7月～9月、10月～11月）などを行う。

○津軽海峡交流圏フリーパス構築事業（企画政策部）／平成 26 年度 [提案番号 39]

津軽海峡交流圏内のフリーパス実現に向け、青森県、北海道、交通事業者等による協議会を設立し、協議・検討を実施する。また、青森県、北海道、レンタカー事業者による部会を設置し、本県と道南地域をまたぐレンタカー利用の割引サービスの実現に向けた取組を実施する。

※北海道との共同事業

○λ（ラムダ）プロジェクト推進事業（企画政策部）／平成 25・26 年度

北海道新幹線開業を契機とした津軽海峡交流圏の形成に向け、民間委員で構成する「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」の運営や、北海道・青森県との連絡調整会議や、道庁と県庁との共同連携事業等について検討する研究会などを開催する。

○つながる県民プロジェクト事業（企画政策部）／平成 26 年度 [提案番号 32]

首都圏で開催される県関連イベント、本県出身の人財の紹介等をするウェブサイトの立ち上げや、県内交流を促進し自分の住む地域以外にも関心と愛着をもつための素材集を作成する。

○縄文ムーブメント拡大事業（企画政策部）／平成 26 年度 [提案番号 28]

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向け、縄文アートフェスティバルなどのイベントの開催、ウェブサイトやフェイスブックでの情報発信のほか、在京メディアに対するモニターツアーを実施するなど、縄文の新たな楽しみ方を提案する。

○「あおりポテンシャルビュー」構築事業（企画政策部）／平成 26 年度 [提案番号 27]

県の「ポテンシャル」を視覚的にも分かり易く、総合的・体系的に把握可能で、市町村別の紹介も各種データと関連付けて閲覧しやすい情報提供サイトを構築・開設し、サイト構築後は、県内外に広く周知・PRを行う。

○青い森鉄道新需要創造事業（企画政策部）／平成 25・26 年度 [提案番号 15]

青い森鉄道沿線の交流人口増加、地域の活性化を図るために、新駅開業及び新型車両導入に合わせた「わ」の娘っこの活用によるプロモーションを実施したほか、鉄道雑誌への記事掲載などを行うことなど、定期券以外の利用（新需要）増加に向け、戦略的な魅力発信を行う。

○白神山地 21 年目からの保全と活用推進プロジェクト事業（環境生活部）／平成 26 年度

[提案番号 28]

白神山地の巡視活動や定点観測を通じてモニタリングデータの収集と「白神の今」情報の発信、白神山地及び周辺地域の資源を活用した商品・サービスづくりを通じて地域の次代を担う人材育成、白神エコツアーの進展に向けた調査検討等を行う。

○白神山地エコツアー資源可能性調査事業（環境生活部）／平成 26 年度 [提案番号 28]

白神山地の自然や里山の暮らしなどの「白神の恵み」を体感できる 1~2 時間程度の散策の場の整備や体験メニューづくりについて可能性調査・設計を実施する。

○青森県特別保証融資制度貸付金「未来を変える挑戦資金」（商工労働部）／平成 26 年度

県の推進する戦略等に基づく重点推進分野に属する事業（観光客等の交流人口の増加に伴う経済効果の県内への波及のための取組等）を含む前向きな取組を行う県内中小企業者に対し、長期かつ低利で資金調達を可能とする特別保証融資制度を実施している。

○新幹線開業効果活用型地域産業創出事業（商工労働部）／平成 25・26 年度

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業を見据え、開業効果活用産業創出フォーラムを開催し、中小企業者に対して新幹線開業効果を活かした地域の取組機運の醸成を図るとともに、地域産業創出ワークショップを実施し、新商品・サービスの開発、県外へのPR強化と販路開拓に対して支援する。

○青函連携「食と観光」タイアップキャンペーン事業（農林水産部）／平成 26 年度

[提案番号 13]

青函キャンペーンや北海道物産展でのプロモーション活動など首都圏等における青函物産・観光 PR イベントの実施や、青函交流商談会の開催支援などを行う。

○観光おもてなしブラッシュアップ事業（観光国際戦略局）／平成 26 年度 [提案番号 19]

小学生のおもてなしの心の育成、おもてなし向上実践講座や極上のおもてなしチャレンジ塾の開催、観光案内版の多言語化など、北海道新幹線開業に向けて、観光客へのおもてなしのブラッシュアップを図るための取組を一体的に進める。

○観光マインドアップ事業（観光国際戦略局）／平成 26 年度

[提案番号 13]

北海道新幹線開業に向けた機運醸成を図り、誘客促進や受入体制強化につなげるため、フラッグ、のぼり、ポスター等の作成や、マスコミを活用した情報発信を行う。

○青森県・函館誘客促進プロモーション事業（観光国際戦略局）／平成 26 年度 [提案番号 13]

J R 東日本と連携した観光 PR キャンペーンや J R 主要駅における広告の掲出、旅行会社販売店舗等における観光 PR 活動、首都圏等における「食と観光プロモーション」での PR 活動などを行う。

○東アジア・ASEAN 向け情報番組制作事業（観光国際戦略局）／平成 26 年度

[提案番号 13]

東アジア及び東南アジアからの誘客拡大に向け、本県と道南地域の魅力を紹介し、知名度向上を図るための情報番組を現地で放映する。

○青函広域観光推進事業（観光国際戦略局）／平成 25・26 年度

[提案番号 13]

本県及び道南地域への誘客促進を図るため、首都圏等の商品造成担当者を対象としたモニターツアーや、本県及び道南地域の観光資源を旅行商品造成担当に対してセールス活動などを行う。

○青函サイクル・ツーリズム魅力発信事業（観光国際戦略局）／平成 26 年度 [提案番号 9]

北海道新幹線開業の機会を活かした新たな旅行客の獲得を図るため、自転車を活用した周遊・滞在型観光コンテンツの充実を図るとともに、サイクリングに関する一体的かつ強力的な情報発信に取り組む。

○アレコ青函ソウル共感力創造事業（観光国際戦略局）／平成 26 年度 [提案番号 13]

本県と韓国の舞台芸術を担う若手人材の交流を促進するため、県立美術館とソウル大学路アレコ芸術劇場が総合舞台芸術「アレコ」を共同制作し、青森市・函館市において公演するとともに、ソウル国際公演芸術祭に参加する。

○北海道新幹線「奥津軽駅」開業に向けた戦略展開事業（東青地域県民局）／平成 26 年度 [提案番号 7]

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業効果を最大限に獲得するための地域資源活用の具体化に向けた検証及びPRイベント等の実施、観光客の受入れに向けたおもてなし講演会の開催、平成 27 年度早期の情報発信に向けた素材収集等を行う。

○北海道新幹線「奥津軽駅」開業効果に向けた観光拠点化モデル事業（東青地域県民局）／平成 26 年度 [提案番号 4]

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業効果を上磯地域全体で獲得するため、外ヶ浜町平館地区をモデル地区としてワークショップによる地域資源の発掘・磨き上げ、情報発信のあり方の調査検討等を行う。

○道南と津軽・夏泊・下北半島との連携促進事業（東青地域県民局）／平成 25・26 年度 [提案番号 37]

道南地域と津軽・夏泊・下北半島との交流・連携を図るため、地域づくり活動団体や観光関連事業者等のネットワーク構築、交流・勉強の開催を行う。

○上磯地域のグリーン・ブルー・ツーリズム促進支援事業（東青地域県民局）／平成 26 年度 [提案番号 2]

平成 27 年度の北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業を見据え、グリーン・ブルー・ツーリズム実践者の開拓と育成や里と海の連携による受入態勢づくりを進めるとともに、現地発着型の体験メニュー開発や道の駅等との連携による販売システムをつくる。

○白神の食めぐり観光促進事業（中南地域県民局）／平成 25・26 年度 [提案番号 28]

白神山地への更なる誘客促進を図るため、食をテーマとした観光コースを設定し、モニターツアーの実施を通じて検証・ブラッシュアップなどを行う。

○三陸復興国立公園の新たな魅力発信事業（三八地域県民局）／平成 26 年度[提案番号 28]

三陸復興国立公園の知名度向上による観光振興を図るため、新たな魅力を提案する観光ルートづくり及びトレッキングイベントによるPR・情報発信を行う。

○北海道新幹線開業に向けた津軽半島北部エリア観光推進事業（西北地域県民局）／

平成 26 年度

[提案番号 7]

西北地域において北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の開業効果を最大限に獲得するため、津軽半島北部における観光コンテンツの発掘・磨き上げ、モデルコースの検討、地元ならではの視点からのPR・情報発信等を行う。

○体感する小川原湖推進事業（上北地域県民局）／平成 26 年度

[提案番号 2]

小川原湖を取り巻く関係者と観光事業関係者及び外部有識者などによる勉強会・ワークショップを開催し、小川原湖ならではのアクティビティや食材などを提供できる仕組みづくりと認知度向上策を検討する。

○道南地域からの上北地域誘客促進事業（上北地域県民局）／平成 25・26 年度

[提案番号 13、28]

上北地域への誘客に有効な資源、ターゲットとすべき年代などの基礎資料とするため調査を実施したほか、旅行会社に旅行商品造成の促進を図るとともに、道南地域において情報誌への広告掲載及びイベントでのPRを行う。

○下北「海の道」の魅力発信事業（下北地域県民局）／平成 26 年度

[提案番号 20]

海上交通を活用した下北半島への交流人口拡大を図るため、ワークショップ等の開催やモニターツアーの実施などにより、地元の機運醸成と観光コンテンツの磨き上げ及び観光ルートの開発を行う。

○台湾から来さまい下北推進事業（下北地域県民局）／平成 26 年度

[提案番号 20]

函館を訪れる台湾人のうち、ツアー客でかつリピーター客をメインターゲットとしたインバウンド対策を行うものであり、台湾人観光客受入れに対する地域関係者の機運醸成及び地元住民の意識啓発を図るとともに、観光商品造成に向けた検討等を行う。

<市町村>

○青函ツインシティ推進事業（青森市）／平成元年度～

青森市と函館市のツインシティ提携に伴う幅広い分野での交流事業の積極的な推進を目指すとともに、一層の青函地域の活性化と一体的な発展を目指す。

平成 26 年度は青函ツインシティ提携 25 周年を記念し、記念式典や青函コラボスイーツ（平成 26 年 4 月に、青森市産のカシスと道南のチーズを使用した青函コラボスイーツ「ヒトナツノコイ」が販売開始）の開発など改めて提携の趣旨や活動を PR し、「圏域内交流」の裾野の拡大と促進を図り、次の世代へ青函交流を継承していく。

○津軽海峡・むつ湾広域連携推進事業（青森市）／平成 23 年度～

東北新幹線新青森駅開業及び北海道新幹線新函館北斗開業による継続的な新幹線効果を獲得し、圏域の魅力を相互補完するため、道南及び津軽半島・下北半島との観光と物産における広域連携を推進する。

○津軽海峡ブランド博開催事業（青森市、平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村）／平成 25 年度～

東北新幹線の開業効果の持続・拡大と平成 27 年度に予定されている北海道新幹線開業との相乗効果を獲得するため、東青地域及び道南地域の市町村、経済団体及び事業者等が連携し、特産品の販売、商談会及び広域観光の PR 活動を行う。

○青函ツインシティまつり交流事業（青森市）／平成元年度～

[提案番号 38]

青森ねぶた祭への函館港まつり「いか踊り」を招へいする。

○青函観光宣伝協議会（青森市）／昭和 51 年度～

青函を一体の観光圏として宣伝紹介し、観光客の誘致を図るため、多様なプロモーション事業や青函での周遊を促す仕組みづくりに取り組む。

○青函圏観光都市会議（青森市、弘前市、八戸市、函館市）／平成 25 年度～[提案番号 35]

県内三市（青森、弘前、八戸）に函館市を加えた 4 市が組織する「青函圏観光都市会議」において、首都圏等でのプロモーションを行うほか、滞在化を促す仕組みの構築や、（仮称）青函圏博覧会の開催などに取り組む。

○小牧野遺跡資料展示施設整備事業・小牧野遺跡整備事業（青森市）／平成 17 年度～

[提案番号 28]

小牧野遺跡を中心に、青森市の縄文遺跡から出土した遺物を網羅的に展示するとともに、小牧野遺跡及び縄文文化の価値を伝える拠点施設として旧野沢小学校を改修し、「（仮称）青森市小牧野遺跡保護センター」として整備する。また、小牧野遺跡を適切に保存するとともに、憩いと歴史学習の場として活用するため、「（仮称）青森市小牧野遺跡観察施設」を整備する。

（H27 オープン）

○世界遺産登録推進事業（青森市）／平成 21 年度～

[提案番号 34]

世界遺産登録を推進する上で、遺跡の適切な保護が重要であることから、小牧野遺跡及びその周辺区域が、その価値を損なうことなく将来世代へと確実に引き継がれていくことを目的に、「青森市小牧野遺跡の保護に関する条例」を制定（H24.12）している。

○北海道新幹線新函館開業対策事業（弘前市）／平成 26 年度

弘前駅自由通路等を活用した旅行者の歓迎事業や弘前駅自体の賑わいを創出する事業に対して補助する。

また、はこだてクリスマスファンタジーひろさきナイトでの弘前市のPR活動（H23～）や、函館市と連携した首都圏等（大宮、札幌、函館）PR（H24～）などを行う。

○種差海岸遊覧バス運行事業（八戸市）／平成 15 年度～

[提案番号 21]

八戸市交通部が新幹線に接続するJR八戸線ダイヤに合わせて運行するバスの経費を負担し、種差海岸への誘客促進を図る。（平成 26 年の運行期間は 4 月 19 日（土）から 11 月 16 日（日）まで）

○日曜朝市循環バス運行事業（八戸市）／平成 16 年度～

[提案番号 21]

観光コースとして好評な館鼻岸壁朝市行きのワンコインバスを運行することで、利便性の向上と誘客を図る。（平成 26 年の運行期間は 4 月 6 日（日）から 11 月 30 日（日）までの毎週日曜日）

○種差海岸らくらくサイクル事業（八戸市）／平成 25 年度～

[提案番号 22]

電動アシスト自転車によって種差海岸エリア内を自由に散策できるようにし、エリア内移動の利便性・回遊性の向上を図ることで来訪者の満足度を高めることを目的として、電動アシスト自転車のレンタサイクル事業を行う。

○物産販売促進事業（八戸市）／平成 23 年度～

[提案番号 38]

函館、札幌などで八戸の食、祭り等をPRし、八戸ブランドの浸透を図ることで、北海道からの誘客を推進する。出展イベントは6月の「函館・東北チャリティプロモーション」、9月の「はこだてグルメサーカス」を予定。

○五所川原まるごとPRキャラバン事業（五所川原市）／平成 25 年度～

これまで情報発信について弱かった西日本へのキャラバンを重点的に展開し、誘客促進はもとより「五所川原市」の知名度向上を図ることを目的とするものであるが、H26年度は北海道新幹線開業を目前に控えた函館市において実施する。

○津軽半島地域活性化促進事業（五所川原市）／平成 26 年度

○「津軽半島の魅力発見！あなたが写す津軽半島フォトコンテスト」開催事業
津軽半島地域が持つ魅力を地域住民が再認識し、新たな地域資源を掘り起こすためにフォトコンテストを開催する。入賞作品については、圏域内において順次、展示会を開催し、地域住民に対して啓発を促していく。

○津軽半島PR広告掲出事業

津軽半島のPRを図るため、訴求力ある仕掛けとして、上記フォトコンテストの入賞作品を素材として活用したPR広告を作成し、特急列車車内、新青森駅電光掲示板、東京モノレール車内、東北・上越・長野新幹線車内及び各新幹線主要駅へのPRポスター等を用いた広告掲出を行い、広域的かつ効果的に津軽半島地域への誘客を図る情報発信活動を行う。

（事業主体は津軽半島振興対策促進協議会）

○七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行事業（十和田市、七戸町）／平成 24 年度～

[提案番号 21]

七戸十和田駅から奥入瀬溪流・十和田湖の入り口である焼山までシャトルバスを運行する。（事業主体は七戸十和田奥入瀬シャトルバス運行協議会）

○十和田地産品PR活動隊（十和田市）／平成 26 年度

十和田市立南小学校の6年生が修学旅行先のJR函館駅構内で、十和田市の地場産品の無料配布等を行い、PR活動を行った。（平成26年6月20日）

○函館グルメサーカスへの参加（三沢市）／平成 25 年度～

ゆるキャラやキャンペーンガール等による観光PR及びご当地グルメ（パイカ料理、チーズロール）を出店する。

○旅行エージェントへのプロモーション（三沢市）／平成 25 年度～ [提案番号 13]

函館市及びその周辺の小学校からの修学旅行受入れを中心としたプロモーション活動を行う。

○下北半島観光フォトスポットPR事業（むつ市）／平成 26 年度～

下北半島各地の絶景フォトスポットを下北観光協議会ホームページや観光案内板、雑誌等で紹介するとともにフォトコンテストを開催し、“下北半島へ写真を撮りに行こう”をPRする。フォトコンテストの募集期間を長期に設定し、四季を通じた下北半島周遊及び滞留、更には再訪の促進を図る。初年度はフォトコンテスト、フォトスポット案内板の設置等を行い、次年度以降は北海道や関東圏で入賞作品展示等の観光PRを行う。

（事業主体は下北観光協議会）

○むつ市夜景観光推進事業（むつ市）／平成 25 年度～

平成 25 年度は夜景観光 PR ポスターの作成、悪天候時に夜景のイメージができるよう展望台に夜景パネルの設置を行ったほか、夜景を観光プランへ活かすための取組を学ぶため夜景サミットへ参加した。平成 26 年度は釜臥山展望台からの夜景をメインとしたむつ市の観光 PR 映像を作成し、YouTube などで配信する予定。

○夏泊半島ブルーロードライド（平内町）／平 26 年度

夏泊半島活性化のスポーツイベントとして、色彩豊かな平内町に全国の自転車愛好家を招き、自然と伝統が一体となった夏泊半島独自の文化を知ってもらうとともに、地元の方とのふれあいを通じて地域振興に寄与し、「自転車」を利用しての健康増進やスポーツレクリエーションの機会を提供する。

○ハクチョウのまち再生（平内町）／平成 25 年度～ [提案番号 28]

渡来のハクチョウが特別天然記念物に指定されているところは、全国で当町の「小湊のハクチョウおよびその渡来地」が唯一である。この渡来地の美しい景観と自然環境を後世に守り伝えるため、住民意識の醸成を図り、活動の輪を広げるため、ハクチョウのまち出前講座、ハクチョウ検定などを行う。

○まるごとPRキャラバン事業（今別町）／平成 26 年度～

観光客をひきつける魅力を継続的、強力に発信していくため、道南エリアに向けキャラバンを展開して誘客促進と今別町の知名度向上を図り、「荒馬のある今別町」「今別町のある青森県」「北海道新幹線駅の今別町」を目指す。協働参加市町村は、五所川原市、中泊町、今別町の1市2町。

○友好町知内町との交流活性化事業（今別町）／平成4年度～

平成2年8月8日に知内町友好町締結を行って以来、経済、産業、文化、スポーツ等の交流を行っており、交流実施団体に対し交付金を交付する。

（交流実施団体：今別小学校、バレーボールクラブ、ゲートボールクラブ、老人クラブ連合会）

○道の駅たいらだて「Oh!だいば」周辺散策マップ配布（外ヶ浜町）／平成26年度～

[提案番号 4]

「道の駅たいらだて」には、平館灯台、平館台場跡など、歩いて巡ることができる地域資源が密集していることから、各地域資源の説明書きなどが記載されたマップを配布し、来訪者が楽しめる情報発信を行う。また、平館地区の食堂、温泉のマップをパンフレットにまとめる。

○北海道新幹線開業対策津軽半島連携事業（中泊町）／平成26年度

町のゆるキャラの製作とPRをする。函館市において、五所川原市と今別町と連携し各市町の特色を活かしたPR事業を行う。

○北海道新幹線開業対策にぎわう駅ナカビジネス創造事業（中泊町）／平成24年度～

津軽中里駅の駅ナカにぎわい空間を活用し、コミュニティカフェ、観光案内、特産物直売、駅ナカミュージアムを地元の元気な「かつちゃ」たちが中心となり運営する。観光客や地域の住民が集うことを目的に四季のイベントや加工品を開発して、駅ナカをにぎやかにしていく。

○北海道新幹線開業対策徐福来町伝説・津軽海峡連携PR事業（中泊町）／平成26年度

北海道新幹線開業を控え、地元より徐福来町伝説をPR・発信する活動と、北海道道南の函館市のイベント（はこだてグルメサーカス）に参加し地元の特産物と津軽伝統金多豆蔵人形芝居を活用した「津軽弁と津軽人」をPR・発信する活動の事業を行う。

○観光客誘客促進による地域活性化推進事業（大間町）／平成25・26年度

札幌市内での観光PR、ラジオ番組出演によるPR、エージェント等へのPR活動や、東北地域等の観光施設へのポスター掲示やテレビ、ラジオ番組でのイベントの告知活動を行う。

○圏域内ネットワーク強化によるゴールデンルート構築事業（佐井村）／平成26年度

道南地域観光関係者並びに旅行者をモニター招請し、観光コンテンツの有効な検証を行い、観光プログラムの商品化に向けた取組に資する。併せて、交流地域内の活性化、交流人口などの拡大に繋げることを目的とする。

○町内巡回バス運行事業（階上町）／平成 26 年度～

三陸復興国立公園指定を受け、階上駅から町内主要施設を巡回するバスを運行することで受け入れ態勢の整備をし、もって県内外へ町の特産品や観光を広くPRするとともに交流人口の拡大を図る。（平成 26 年度の運行期間は 4 月～11 月の第 2、第 4 日曜日）

青森県津軽海峽交流圏ラムダ作戦会議 公開十マ作戦会議

北海道新幹線開業まであと2年
～津軽海峽交流圏を盛り上げよう！

日時

平成26年 **3月15日（土）** 15:30～19:00
(交流会19:00～20:00)

場所

フラックボックス 2階 「フラックホール」
(旧青森松竹会館/青森市古川1-14-3)

※りんご娘が応援
に来るかも？



プログラム

◆第1部 トークセッション 15:30～17:30 無料

テーマ：**マニア**をターゲットに！（お酒、自転車、食、鉄道、etc）

内容：ラムダ作戦会議イメージづくりチームの島康子リーダーを始めとする委員が、参加者のみなさんと一緒に津軽海峽交流圏の形成に向けて考えます。

※当日の様子（第1部）は、ユーストリーム <http://www.aoradi.com> とミニFMラジオ88.6MHzで放送します。
(ミニFMラジオは会場周辺で聴取可能です。)

◆第2部 ラムダ実験室 18:00～19:00 無料

グループに分かれて、第1部で取り上げた県産酒と食の組み合わせを会場のみんなで実際に
テイスティングし、品評します。意外な組合せで県産酒の新たな魅力を発見してもらいます。

◆交流会 19:00～20:00 会費制1人1,500円

「ラムダ作戦会議」とは・・・
青森県では、平成27年度末の北海道新幹線開業を契機として、本県全域と道南地域を一
つの圏域とする「津軽海峽交流圏」の形成を目指す「**λ（ラムダ）プロジェクト**」に取り組
んでいます。「**ラムダ作戦会議**」は、県内外で活躍する民間委員で構成する会議で、**λ**
プロジェクトを推進していくためのエンジン役です。

新緑の青森ひば林と森林鉄道軌道跡トレッキング ～みちのく松陰道コース～



昨年、NPO法人かなぎ元気倶楽部を中心に奥津軽トレイル倶楽部が発足し、日本三大美林「青森ひば林」、奥津軽の森に忽然と現れる近代化遺産「森林鉄道軌道跡」をテーマに新たなトレイルルート開発にチャレンジしました。
その中でも、ハイライトといえる「みちのく松陰道コース」のモニターツアーを実施します。ココロとカラダに生命力を感じる蘇りの旅へ。みなさまのご参加をお待ちしております。

魅力のポイント

1. 幕末、吉田松陰が北方防備状況を確認するために通ったみちのく松陰道を歩く！
2. 森の中に現われる見事な森林鉄道の木橋・石垣・ポイント跡を見学
3. 雄大な青森ひば林・ブナ林を散策
4. 専門ガイドがご案内
5. 奥津軽トレイル名物、若生おにぎりの昼食付

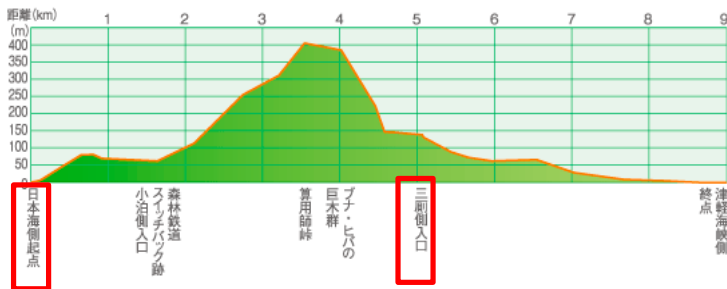
■みちのく松陰道コースについて

当日は、日本海側のみちのく松陰道入口から津軽海峡側の三厩入口までの約5km、標高差366mを歩きます。途中、森林鉄道軌道跡をご案内しながら、ハイライトは森の中に存在感たっぷりの2つの木橋跡。さらに広葉樹の森、算用師峠を越えて、雄大なブナ林、青森ひば林を楽しみながら、三厩側に抜けていきます。あの吉田松陰が幕末、熱い思いを持って、三厩まで抜けた道、そして、青森ひばで栄えた奥津軽の足跡をご堪能ください。途中、トイレがございませんので、ご注意ください。

- 実施日 :2014年5月10日(土)
- 募集人員 :40名
- 参加費 :4,000円
- 旅程

8:30	五所川原駅集合
9:00	津軽三味線会館集合 ※途中、車窓から十三湖岸の相内支線跡見学 ※小泊道の駅(トイレ)休憩
10:30	みちのく松陰道入口へ 森林鉄道軌道跡 峠あたりで昼食。若生おにぎり弁当
14:30	三厩のみちのく松陰道入口 ※三厩の公園でトイレ休憩
16:00	芦野公園の森林鉄道見学
16:30	津軽三味線会館へ。五所川原駅解散
OP17:00	かなぎ元気村にて香りウォーター作り体験及び懇親会

※現地状況により、スケジュールは変更になる場合があります。



■懇親会を実施します！(OP)

モニターツアー終了後、かなぎ元気村「かたるべえ」にて、青森ひばの香りウォーター作り体験と、振り返り及び今後の奥津軽トレイル倶楽部のあり方を考える懇親会を実施いたします。「かたるべえ」の郷土料理をお楽しみいただきます。当日お時間のある方は是非、ご参加ください。

■開催時間; 17:00～(2時間程度) ■会費; 3000円
お問合せ⇒かなぎ元気倶楽部 担当; 斎藤・橋本・毛内

0173-54-1616

マルチアスリート田中哲也と行く 奥津軽「駅からサイクリング」

奥津軽いまべつ駅ができれば、こんなコースやあんなコースを走りた〜い。紹介した〜い皆さんと一緒に！田中哲也と走る「奥津軽サイクリングお試しツアー」

開催日

平成26年7月21日(祝)



集 合：津軽今別駅（北海道新幹線奥津軽いまべつ駅）
 コース：上級者向け 奥津軽周遊コース
 走行距離：83.8km ※サポートカーでの移動距離も含む
 案内役：マルチアスリート 田中哲也 氏
 参加料：3,500円（保険、サポートカー伴走/スタッフ4名、飲み物）
 募集人数：20名（締切り7月8日）
 ※昼食をご希望の方は別途1,100円で手配します。
 ※雨天の場合は、安全を考慮し延期する場合があります。

田中 哲也
 片足のマルチアスリート。青森県今別町ふるさと大使。
 98年ソルトレークパラリンピック、2002年長野パラリンピック、
 日本代表選手。自転車で日本や世界の大陸を走破！

青森駅改札前 集合(8:00)

津軽海峡線(特)白鳥93号

青森駅(8:24)発 津軽今別駅(9:05)着 集合点呼

津軽今別駅出発(9:30) == (21.4km) == 道の駅みんなまや == (16.7km) == 道の駅こどもり(昼食)

== (18.5km) == 道の駅十三湖高原 == (27.2km) == 蟹田駅(17:30) 集合点呼 ※夕食後解散

津軽海峡線(特)白鳥38号

蟹田駅(18:34)発 青森駅(18:57)着

※現地の状況や天候により変更する場合があります。



実施/ また旅くらぶ 〒030-0861 青森市長島2-1-5 みどりやビル9F TEL/FAX 017-762-7460
 高木まゆみ 携帯 090-6850-3723 E-mail takagimayumi7@gmail.com
 協力/ KIWI&ATCスポーツ

お 申 込 書

FAXの方は切り取らずにそのまま送信してください。
 FAX 017-762-7460

氏 名	鉄道利用	昼食希望 (1,100円)	住 所	電 話
	①あり ②なし	①あり ②なし	〒	
	①あり ②なし	①あり ②なし	〒	

South Hakoda Canyoning Program 2014



Shower Trekking & Canyon Tubing

シャワートレッキング&
キャニオンチュービング

南八甲田山系の最高峰「櫛ヶ峯」を源流とする大自然の渓流で、「大人の休日」を大満喫!!
ガイドブックに載っていない絶景を見ながら渓流をバシャバシャあるき、渓流でプカプカ浮かぶ、お山のおもしろ学校が自信をもってオススメするスペシャルでスリル満点な「おもしろ〜」プログラムです。

期 間 平成26年7月12日～9月14日
集合場所 お山のおもしろ学校
時 間 集合8:30 / 解散11:30
参加対象 18歳以上の健康な方
料 金 お一人さま 6,500円(税込) ※障害保険代を含む
お申込み 2名様以上でお申込みください。



Canyon Tubing

キャニオン
チュービング

キャニオニング気分で渓流をチューブでくださる!!
プカプカとスリルを味わえるキャニオンチュービング!!
初心者コースから中級コースまでご用意してます。

期 間 平成26年7月12日～9月14日
集合場所 お山のおもしろ学校
時 間 集合8:30 / 解散11:30
参加対象 18歳以上の健康な方
料 金 お一人さま 4,500円(税込) ※障害保険代を含む
お申込み 2名様以上でお申込みください。

持ち物について

水着、沢シューズ(サンダル不可)、手袋(グローブ)
速乾性のある長ズボンと長袖シャツ(中に水着着用)
バスタオル、お風呂道具、着替え、ザックなど
※ヘルメット、フローティングジャケットは無料レンタル

レンタルのご案内

ウェットスーツ 1,300円(税込)
沢シューズ 400円(税込)
グローブ 150円(税込)
※お申込みの際に合わせてご予約ください。

注意事項

本プログラムは自然の中で楽しむアウトドアメニューのため、悪天候時には安全確保のためコースの変更や中止となる場合があります。あらかじめ自然体験プログラムであることをご理解のうえ、お申込み・ご参加くださいようお願いいたします。また、安全確保のためカメラのご持参はご遠慮いただいております。

お申込み
お問合せ

お山のおもしろ学校

〒036-0401 青森県黒石市大川原門尻47-1
TEL/FAX 0172-54-2505



JR 八戸線で行く

鮫銀座☆漁師の隠れ家 はしご酒ツアー

6/13(金)17:45-22:00



漁師の隠れ家をご紹介！
夜の鮫銀座へ繰り出すべし！



陸奥湊

Good Morning! 元気ツアー

6/14(土) 6:30-9:30

17:45 本八戸駅集合
乾杯
夕暮れの魚市場
鮫銀座ではしご酒
22:00 本八戸駅解散

1,800 円

(モニターツアー料金)

6:30 はっち集合
7:00 第二魚市場セリ見学
魚菜市场周辺で朝食
グレットタワー見学
9:30 はっち解散

陸奥湊の『とっちゃん』と
『かっちゃん』の声で
元気にスタート！

1,800 円

(モニターツアー料金)



締切

6/11(水)
18:00 まで

お申込み
方法

6/11(水)18:00 までに電話または FAX にてお申込みください。
電話 0178-85-0137 FAX 0178-38-8021

お申込み



AC TOURISM

氏名	人数	名様
住所 〒	連絡先	
<input type="checkbox"/>  6/13(金)17:45 ~ 22:00 鮫銀座☆漁師の隠れ家はしご酒ツアー	1,800 円	
<input type="checkbox"/>  6/14(土)6:30 ~ 9:30 陸奥湊 Good Morning! 元気ツアー	1,800 円	

※追加のご飲食は実費ご負担ください。
※ツアー代金は当日お支払い願います。